

平成 26 年度普及指導活動に係る外部評価会議の実施状況について

1 趣旨

広島県の農業技術指導所において、より効果的かつ効率的な普及指導活動を展開するために、当年度の普及指導計画から選定した普及課題について幅広い視点から有識者より意見を聴取し、その評価結果を今後の普及活動に反映させることをねらいとして実施した。

2 外部評価会議の内容

(1) 有識者の構成

所属・役職等	人数
指導農業士（男性）	1名
指導農業士（女性）	1名
農業参入企業役員	1名
大学准教授	1名
農事組合法人理事	1名

(計 5 名)

(2) 評価課題

課題番号	課題名	主な品目	対象経営体	関係市町	担当農業技術指導所
1	担い手等の経営発展支援	水稻, アスパラガス, 白ねぎ	集落法人	安芸高田市	西部
2	新たな担い手による高品質ほうれんそう産地づくり	ほうれんそう	新規就農者	廿日市市	西部
3	担い手等の経営発展支援	水稻, 作業受託, 白ねぎ, 繁殖牛	集落法人	神石高原町	東部
4	担い手中心の活力ある福山農業の実現	いちじく	集落法人	福山市	東部
5	担い手等の経営発展支援	夏秋いちご	農業参入企業	庄原市	北部

(3) 評価項目

- ・普及指導活動の課題及び対象の設定と普及活動計画の内容について
- ・普及指導活動体制と関係機関との連携方法等について
- ・普及指導活動の方法、指導の成果及び波及効果について

(4) 評価の実施

【第 1 回目】 ※有識者への事前説明

- ・日時：平成 26 年 7 月 24 日（木） 10：00～15：30
- ・場所：広島県福山庁舎第 3 庁舎
福山市いちじく栽培ほ場（現地）

時間	内容	参加者
10：00～12：00	<ul style="list-style-type: none"> 普及指導活動の説明 (チャレンジプラン, 普及指導体制, 普及指導計画等) 評価課題の概要説明 	有識者, 農業技術指導所長, 農業技術課
13：00～15：30	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査 (課題番号4) (福山市いちじく栽培ほ場2ヶ所) 	

【第2回目】※外部評価会議の開催

- ・日時：平成27年1月29日(木) 10：00～15：00
- ・場所：県立総合技術研究所 農業技術センター

時間	内容	参加者
9：30～9：50	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価実施概要の説明 	有識者, 農業技術指導所長, 農業技術課
10：00～12：00	<ul style="list-style-type: none"> 評価課題実績の説明 (平成26年度普及指導活動実績報告会へ出席) 	有識者, 農業技術指導所, 農林水産事務所(農林事業所), 県庁関係課, 市町等
13：00～13：50	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価会議 (各課題への質疑応答, 評価の実施) 	有識者, 農業技術指導所, 農業技術課
14：00～15：00	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価会議 (外部評価意見の整理) 	有識者, 農業技術課

(5) 評価課題の活動・成果の概要と外部評価会議で出された主な意見

課題番号1：「担い手等の経営発展支援」(西部農業技術指導所)

【活動・成果の概要】

- ・対象の集落法人は、担い手の確保と周年雇用を目的とした園芸品目の導入が課題であった。
- ・このため、指導所では、経営戦略の構築を支援し、周年雇用できるアスパラガスと白ねぎ栽培を提案し、導入された。排水対策や生育ステージごとの栽培技術指導等、安定生産に向けて継続的に支援を行った。
- ・その結果、アスパラガスは早期に目標収量を達成し、担い手の確保に至った。
- ・今後は、引き続き生産安定・農業所得確保に向けて、栽培管理者の技術向上支援、労務管理支援等を行う。

【主な意見】

- ・今後、集落法人の経営発展が必要であり、園芸品目導入と新規就農モデルとして評価できる。
- ・指導所、市、JAの役割分担がうまくいっている。
- ・他の集落法人への園芸品目導入等に関して、地域への波及効果はどうであったか。

課題番号2:「新たな担い手による高品質ほうれんそう産地づくり」(西部農業技術指導所)

【活動・成果の概要】

- ・当地域は、県内有数の夏ほうれんそうの産地であるが、生産者・生産量が減少していた。関係機関と検討の結果、近隣地域も含めて新規生産者の育成を柱とすることとし、平成25年に研修施設等が設置され、研修制度がスタートした。
- ・このため、指導所では、関係機関と役割分担を行い、研修や新規就農のための経営管理、土壌調査によるほ場づくり支援等を実施した。
- ・その結果、2か年で4名の新規就農者を育成し、産地の担い手となった。
- ・今後も引き続き、新規就農者の定着・経営安定に向けて、栽培技術を支援し、新規就農の段階に応じて就農計画を支援する。

【主な意見】

- ・この活動により、確実に就農希望者が就農できていることは評価できる。
- ・市、JAの支援体制が充実しており、その上で普及組織の技術指導が活かされており、関係機関との役割分担ができています。
- ・引き続き、新規就農者の定着に向けたフォローアップが必要である。

課題番号3:「担い手等の経営発展支援」(東部農業技術指導所)

【活動・成果の概要】

- ・社員を数名雇用している担い手型集落法人で、導入作目は、水稻(作業受託を含む)・白ねぎ・繁殖牛で、経営面積(作業受託含む)は約30ha規模である。今後、経営発展を目指すには周年で所得確保できる作目構成の検討、技術習得、人材育成、販路開拓等の課題がある。
- ・このため、指導所では、経営検討会の開催、各作目ごとに栽培技術指導、展示圃の設置(白ねぎ:出荷期間拡大試験、水稻:一発肥料、新品種導入による作期分散、密播育苗による低コスト化試験)等を実施し、経営発展に向けた支援を行った。
- ・その結果、経営計画が策定され、目標が明確となった。白ねぎは一部ほ場を除き、目標収量が確保される見込みとなり、水稻は、展示圃で良好な結果が得られたため、次年度より技術導入することとなった。繁殖牛部門では、新たな雇用者が担当として位置づけられ、繁殖成績が改善した。
- ・今後は、経営発展に向けて、部門別の労務管理支援及び栽培技術向上支援(低コスト化技術含む)を行う。

【主な意見】

- ・水稻、畜産、園芸を組み合わせた集落法人の中山間地域のモデルとして、成功してほしい。
- ・計画的かつ継続的な支援ができています。
- ・部門を組み合わせた指導を行い、総合力を発揮してはどうか。

課題番号4：「担い手中心の活力ある福山農業の実現」（東部農業技術指導所）

【活動・成果の概要】

- ・当地域のいちじく産地では、「ヤケ熟れ果」の発生により生産量が不安定になっている。また、近年は、集落法人への新規導入が進んでおり、4法人で4.6haの栽培規模となっているが、「生育遅延」が課題となっており、それらの原因は十分に解明されていない。
- ・このため、指導所では関係機関、試験研究機関と展示圃（点滴かん水とタイベックシート被覆）を設置し、「ヤケ熟れ果」の対策について検討を行った。また、現地調査による生育遅延の原因把握を行った。
- ・その結果、「ヤケ熟れ果」「生育遅延」の主原因を把握することができた。
- ・今後は、「ヤケ熟れ果」対策として、点滴かん水の導入推進、「生育遅延」対策として、地温上昇対策及び剪定指導により、生産の安定化に向けた支援を行う。

【主な意見】

- ・新規栽培者に対する技術支援を重点的に行っているのは必要なことである。新規栽培者講習会に多数の人が集まっているという事から、波及効果がうかがえる。
- ・かん水に関する新技術も導入し、試験研究機関とタイアップして進めている点は、評価できる。
- ・今後の産地発展に向けた取組が必要である。

課題番号5：「担い手等の経営発展支援」（北部農業技術指導所）

【活動・成果の概要】

- ・冷涼な気候を活用して、5つの参入企業による夏秋いちごの栽培が4.6ha取り組まれているが、生産安定が課題であった。
- ・このため、指導所では、平成25年度までに経営体とともに養液管理指標を作成し、その指標に基づいた養液管理や、モニタリング技術に基づく病虫害対策について支援した。また、展示圃の設置（昇温抑制マルチ）により、新技術の導入を支援した。
- ・その結果、栽培担当者の技術向上が図られ、安定生産技術が確立し、出荷量が向上した。
- ・今後は、各経営体ごとの課題に対応した技術支援を引き続き行う。

【主な意見】

- ・農業参入企業などの新規参入に対しても、門戸が広く開けられており、支援が充実しているイメージを持った。
- ・次年度への課題の整理ができており、継続的な支援により、成果が上がっている。
- ・今後の産地拡大に向けて、関係機関との連携を強化し、取組を進めてはどうか。

3 評価結果の活用

外部評価会議で出された意見を踏まえて、今後の普及指導活動に反映させるように努める。